

第4回神田警察通り周辺まちづくり検討部会 議事要旨

■日 時：令和3年2月9日（火）14：30～16：30

■会 場：千代田区役所8階第1・2委員会室

■出席者：

〔委員〕

●●部会長、※●●委員、※●●委員、※●●委員

●●委員、●●委員、●●委員、●●委員、●●委員

●●委員、●●委員、●●委員、●●委員、●●委員

加島委員（まちづくり担当部長）、印出井委員（景観・都市計画課長）

須貝委員（基盤整備計画担当課長）、神原委員（神田地域まちづくり担当課長）

※オンラインによる出席

〔オブザーバー〕

神田公園出張所 猿渡所長

〔事務局〕

佐藤地域まちづくり課長、地域まちづくり課、UR都市機構

1. 開会

○事務局より資料確認

2. これまでの振り返り

○事務局より説明

<意見交換>

【部会長】

- ・東側と西側の両方の分科会に出席したが、エリアを分けて具体的に集中的にやることにより、かなり活発な意見が出てきた。今回のまちづくり方針（素案）につながっている。

3. まちづくりの検討について

○まちづくり方針（素案）の報告について事務局より説明

<意見交換>

【委員】

- ・昨年、キンキン広場で私物のパンダの置物を展示する企画を地元の町会長と

UR都市機構と一緒に実施したところ、親子連れが多く見られた。近くのマンションにお住まいの方が散歩に来ているようで、そのまま神田スクエアの広場に移動するとのこと。キンキン広場や神田スクエアができたことで散歩が楽しくなったと聞いた。

- ・広場を作るだけでなく、何かアクションを起こすことによって会話が生まれる。町会だけの閉鎖的なものになるとハードルが高くなる。もっと緩い何かを広場でやると、新たなマンション住民との接点が生まれる。

【部会長】

- ・空間的なまちづくりの方針だけでなく、人をつなぐ対話の仕掛けを空間にどのように埋め込んでいくかということは非常に大事である。

【基盤整備計画担当課長】

- ・道路・交通の分野別まちづくりには、神田警察通りで自転車走行区間を整備していくことについても何らかの形で入れてもらいたい。
- ・区としては「五十通り」を道路の通称名として正式に定めていない。こういうものに記載していくことを考えると正式に定めた方が良いのではないか。沿道の方の合意を得た上で町会から申請していただいて、審査会で通れば定められる。

【委員】

- ・五十通りの銘板を作るという話は過去に●●が提案したことがあるが、一部の町会の反対があり結局うまくいかなかった。五十通りだと知っているマンション住民はほとんどいない。
- ・次のまちの担い手を探していかなければ、町会はそのうち無くなってしまふ。新しい住民の方とのコミュニティで町会を続けていくにはどうすれば良いか、ここで議論いただけたら良いと思う。

【部会長】

- ・五十通りの道路通称名について、これまで当部会でも五十通りとして議論をしてきており、違和感はない。ぜひ五十通り沿道の町会さんのほうで申請を行政にあげていただければと思う。まちづくり検討部会としても応援していきたい。
- ・自転車道の整備を方針に記載する形で考えてもらいたい。

【事務局】

- ・ガイドラインを踏まえ、自転車道を入れ込むかたちで整理する。

【部会長】

- ・これから新規に入ってこられる方たちと一緒に、千代田区ないし神田のまちづくりの輪を通じて地域の社会組織や町会等をどのように維持していくかということは非常に重要な投げかけである。

【事務局】

- ・エリアマネジメントにこだわらず、ソフト的な部分のまちづくりとして、新しい住民も含めて話し合う場、プラットフォームというものが必要だろうと考えている。町会の運営なども念頭に置きながら、今後の部会の中で深く議論、検討していきたい。

【委員】

- ・昔からの人がいなくなることが心配である。賃貸マンションはたくさんできているが、町会に取り込もうとしても賃貸の方は継続してくれない。お子さんが小さいご家庭では、区から助成金がもらえるので「町会長、ハンコを押してください」というだけの方も多。

【部会長】

- ・江戸開港 400 年以上経っているこの神田地域は、400 年間にわたって時代ごとにまちは急激に様相を変え、その都度新しい人が入ってきて神田というまちを維持し続けてきているということが長い歴史としてあると思う。都心というのは、人が目指して集まってくる場所である。人が集まってきた時に排他的にするのではなく受け入れて、どんどんまちが変わっていくということが続けてきているということが歴史であり伝統だと思う。400 年続いている歴史や文化や伝統、お祭りがある神田は、非常に希少価値の高い文化的な資源やまちの営みというのがあり続け、そういうものに触れられるということは、他のまちにはない良さだと思う。
- ・この方針を通じて、一声かけられる工夫や気遣いみたいなものが見えるようになり、新しく入ってくる方や、まちづくりを進める事業者がこのまちの良さを伝えられるかが肝要である。

【委員】

- ・町会は行政と連携して安心安全なまちづくりをする役割がある。夜警、交通少年団、防火防犯協会等、行政は常に町会単位で話を下ろしてくる。旧住民である我々が少なくなったときに、受け手となる次の世代のマンション住民たちがどのように受けることができるのか。
- ・住居を建てるとき、管理をしているデベロッパーは住居を建てた人たちに対して町会や地域に参加させる方針を必ず持つことについて、まちづくり方針にも落としとしてほしい。

【委員】

- ・町会は融和と親睦だと言われ、また、防災に関することなども行うが、結局は任意団体でぼんやりとしている。お祭りという組織としては旧態依然としているところがあって、非常に魅力的なところでもあり欠点でもある。そこを補完するように法人格のエリマネを作ることになれば、法人として

目的を定め、定款という形で明確化することになる。そこに、例えば避難所のこと、防犯上のこと、SDGsのこと等を盛り込むことができる。「ここに入ると何かしら社会との関わり合いができる、社会貢献ができる」という見せ方が、たぶんエリマネにもできる。町会はそれがぼんやりしていて、上下関係が厳しくて縛られるのではないかと思われる。

- ・鎌倉町会は「鎌倉橋橋洗い」というイベントをやっている。これは大丸有まちづくり協議会やエリアマネジメント協会と組んでいるが、本当は内神田の5町会をもっと網羅するような、神田エリマネと大手町のエリマネと一緒にやるのが理想のケースだと感じる。
- ・エリマネというしっかりとした組織の中で、町会の活動や新旧住民のコミュニティを手助けし、町会活動を補完していく。例えばガイドを要請する等あらゆるソフトを構築しつつ、地域のプロモーション等地域のために働いてくれる人を入会させるのが良いと思う。その中で、お祭り好きでコアに関わりたい人は第2ステップとして町会に入ってもらおう。エリマネと町会のどちらもwin-winになるようなものが良いと思う。

【部会長】

- ・まちづくり方針にあるコミュニティというテーマから、まち全体をどのように管理していくかという時のエリマネ組織の役割については、来年度以降の大事なテーマになってくる。

【委員】

- ・16ページの3者の関係の中にある「地元」という記載は町会を想定していると思うが、町会は新しいマンション住民とはほとんど関わりがない。新住民と町会の関わり方をもう少し明確に議論しないと、「地元」という表現が絵に描いた餅になる。

【事務局】

- ・今回の方針の中に、新しい住民の方との連携や、まちの担い手やプレイヤーを育てていくことについても織り込んでいく。そういうことを含めて「地元」と記載している。

【委員】

- ・緑や防災など、「分野別まちづくりの方針」に記載がありながら「地域特性を踏まえたまちづくりの方針」に記載されていない内容があるので、整理をお願いしたい。
- ・取組みを誰がやっていくのかということが16ページに記載されていると思うが、15ページまでのまとめ方から、主語が「行政」に見えてしまう。
- ・14、15ページの内容について、「現状あるもの」と「これから作っていかなければならないもの」、あるいは「現状あるけれども少し工夫が必要である

もの」等、取組み内容についても熟度が違っているものがあると思う。

- ・町会とは別のものとしてエリアマネジメントが存在している印象を受けるので、もう少しエリアマネジメントのイメージに町会が主体性をもって参画できるようにかたちを整理してほしい。

【事務局】

- ・まちづくり方針は、今日の意見も踏まえて作りこみを進めていく。新しい住民という話もあるので、ホームページ等で広く周知をして意見をいただくことも考えている。また、神田警察通り沿道や神田地域で開発を検討している開発事業者にも説明して意見をいただき、具体的なものがあれば入れ込んで、この部会でお示ししたい。
- ・エリマネについては、次に繋がる話として引き続き検討していきたい。まちづくりの方針や方向性についてはなるべく早い段階でまとめて周知をしていきたい。

【委員】

- ・パーソナルモビリティを含めて今後様々な移動手段が出てくる。いろいろな交通手段をどのように使い分けていくのかは大きな課題である。
- ・道路空間をいろいろなものに活用する取組みが様々なところで試みられている。東京の中心であることから、それを先取りするような感覚で、うまくモデルになるようなまちにしてみてもどうか。まちづくりであることから、5年、10年先の話にもなると思うので、先進的なことを取り入れるというのをまちづくり方針の中でもう少し強調したら良いのではないかと。

【事務局】

- ・パーソナルモビリティの部分は来るべき将来として大事な視点であるため、まちづくり方針でも強調して整理したい。
- ・道路空間を質的に転換していくという考えも非常に重要であると認識している。

【委員】

- ・分科会の議事録にも目を通して、キーワードがまちづくり方針にうまく盛り込まれていると感じた。
- ・道路・交通について、上位計画では「多様な交通モードを切れ目なく活かせる移動ネットワークの確立」、地域の声としては「交通の流れを考えたまちづくり」といった記載があるが、それを踏まえたまちづくりの方針としては、空間という言葉は出るものの「ネットワーク」の視点が欠けている。自転車の走行空間なども含め、あらゆるモードでネットワークという視点が必要である。
- ・環境・エネルギーについて、国は低炭素化から脱炭素化へと舵を切ってい

- る。キーワードとして「脱炭素化」を入れておくと良いのではないかな。
- ・まちづくり方針には入れ込みにくいかもしれないが、最近「メタ観光」という言葉が注目されており、その良い例として神田の「竹むら」がよくあげられている。歴史的な建築物や有名店ということ以外に、ヒーロー物やアニメの舞台になったり、アプリで見て訪れたりするような場所になっている目に見えない価値のようなものが最近注目されている。そういった情報もまちづくりにうまく取り入れていくと、新住民や来訪者の視点を得られるのではないかな。

【部会長】

- ・今回、まちづくりの方針が1枚の平面図に重要なトピックから載せて整理している形であるため、ネットワークはまだ図示できておらず、課題だと思う。情報を増やそうとすればいくらでも増やせるため、どのあたりを落としどころにするかという話である。一つは、分野別の方針のところネットワークの視点を書き切ること。あとは、図化の工夫をどのようにするかということだと思う。
- ・低炭素から脱炭素の話は最新のトピックとして非常に大事な視点であり、入れ込んでいきたい。
- ・メタ観光について、新しい神田への興味の持ち方の一つとして、賑わいやコミュニティづくりのトピックとして入れ込み、次に繋がられるようにしておく方が良いのではないかな。
- ・分野別の検討の際に事務局でまとめていた神田地域の現況資料等はかなり充実していた。方針の巻末に付けて連動させられるのではないかな。

【委員】

- ・私どもの町会では関東大震災前まで神田市場が位置していて、自分の店の前に商品を広げて売り買いをしていたようだ。道路率が高いと書いてあるが、時間帯や曜日などでもっと有効利用ができないか。夜間人口に比べて昼間人口が多い特性を利用するには、道路などの様々な場所をもっと活用できれば地域や町会のためになるのではないかな。

【部会長】

- ・道路を誰のために、どの時間、どのように使っていくのかというのは、今世界でもそういった例が進んでいる。神田だからこその昼夜間人口の比率などを踏まえながら、道路の使い方をどうするかは非常に大事な論点だと思う。現状認識の中に入れ込みながら、どのように道路を活用していくか、ロジックを繋げていくことを深められたら良いと思う。

【事務局】

- ・以前、町会にご協力いただいて、土曜日に道路を通行止めにして子どもの遊

び場としていたこともある。子どもの遊び場が不足している点もあるので、いろいろな使い方を考えて整理していきたい。

【委員】

- ・私の町会のところ、大きな再開発の話がある。少ない道路でビルやマンション、広場など、土地の有効活用をするには再開発しかやりようが無いと思っている。

【事務局】

- ・行政として土地を持っているのは道路くらいしかないため、ある程度まとまった空間やまとまった幅員のある道路を整備するためには開発と合わせた形での整備は必要となる。他の地域では駅前広場を開発と合わせて整備するなど、広い視野を持って連携してやっていくことになる。ただ、開発自体についても、どこにでもあるまちではなく、路地的な空間や趣のある建物など神田らしさというものが感じられるというのもあわせて必要になってくる。

【まちづくり担当部長】

- ・地域から支持されるようなまちづくりを進めていかなければならない。まちづくり方針は行政がつくる基本方針となるので、一番大事なのはこの方針を作った後に何をやっていくかだと思っている。
- ・90万人を超える昼間人口、来街者、新しい住民の方がたくさんいる特異なまちでもあるので、広く意見を聴かなければ良いまちにはならない。
- ・エリマネの検討については別途検討の場を作っていく。皆様の協力が必要になるのでぜひよろしく願いたい。

【部会長】

- ・まちづくり方針でも道路の活用について触れているが、本数や道路率ではなく、歩ける場所がどういうふうに確保されていくかということが、神田のこれまでとこれからが繋がっていくかという点で大事である。道路だけが歩ける場所ではなく、再開発をすると自由度が上がって空間の形を変えられるようになる。歩けることが、まちの中でどのように回遊性として繋がられるのかという議論も今後具体的に進められたらと思っている。

【委員】

- ・本当に時間が無い。いつまでこの会議をやっているのか。三省堂の取り壊しの話まで出ている。三省堂が神保町からなくなってしまうかもしれない。今さら何十年と神田らしさについて会議をしても、どんどん更地と駐車場ばかりになってしまう。再開発を止めるとか、道路の話だけではなく、もう一歩踏み出して欲しい。スピードアップしてもらいたい。

【委員】

- ・神田駅西口の再開発では区道を良い形で付け替えて利用してもらいたい。神

田駅西口商店街は良い形で組み込まれると思うが、出世不動通り商店会は半分に分かれてしまう。皆さんが納得するように進めてもらいたい。再開発のエリアによって4つの町会が分かれることになる。この4つの町会をどのように線引きしていくのか。もしくは、エリマネという形になって統合されるのか。内神田という住所自体も無意味になってしまうのではないか。鎌倉町会としては再開発の計画の中で町名を復活させてもらいたい。

- ・鎌倉町会エリアのマンションに引っ越してきた方は、「内神田に引っ越してきた」わけであり、「鎌倉町」と言ってもわからない。住居表示に町会名が出てくれば意識が生まれる。再開発と町名復活を一緒にやってくれると我々も賛同しやすい。
- ・良い再開発には大賛成である。神田らしさ、伝統が残って、革新されるものは革新されれば良い。

【委員】

- ・神田警察通りの問題は、きれいにしなければいけないということである。当初、車線数を変えるという話には反対したが、受け入れてもらえなかった。そうした中で、なんとか車いすがスムーズに通れるようにしてほしいこと、そして完成した道路の歩道には一休みできる小さなベンチを置いてほしいことをお願いした。また、木の植え替えについてもスムーズにしてほしいとお願いしてきた。いつになればきれいになるのか。当町会にも車いすを使う方が数名いたが、皆さん亡くなってしまった。工事を早く進めるためには、住んでいる人の我慢も必要である。街路樹の件についても、区は専門的な意見をもってもっと説得しなければいけない。とにかく早く進めてほしい。こんなに時間がかかった道路整備は初めてである。

【基盤整備計画担当課長】

- ・神田警察通りの整備については、皆さんの議論のおかげでやっと整備が進むところまで来た。来年度期待していただきたい。

【事務局】

- ・いろいろな価値観があるため、いろいろな方のご意見を聴きながら将来を見据えてより良い形にしていく必要がある。そのため、お時間がかかってしまった。

○今後の進め方について事務局より説明
<意見交換>
意見なし

4. その他

○「神田警察通り」の名称について

【委員】

- ・神田警察通り沿道整備推進協議会を始めた当初、当時の座長から「神田警察通り」という名称を「イメージが悪い」と言われた。今皆様のご意見をお聞きしたい。

【委員】

- ・残すべきだと思っている。これほど親しまれている名前はないし、警察署の名前が通りについているところは他にない。

【委員】

- ・同意見である。まちの治安の面でも安全な名前だと思う。

【委員】

- ・神田警察通りの名称は残して欲しい。当町会は神田警察署の分家の万世橋警察署の管轄である。万世橋警察署の親であるため残してほしい。

【委員】

- ・新しい警察署の庁舎を見て、絶対残すべき名称だと思っている。

【事務局】

- ・当時、座長から、道路整備がすべて完成した時に検討しようという話があった。変えようと決まったわけではない。推進協議会等でご意見をいただくのも良いと思う。

【委員】

- ・無機質な名前はやめてほしい。奇をてらった名前も全然愛着を生まない。

【部会長】

- ・道路の整備が終わった後にどのようにPRしていくか、皆さんで考えましょうというのが意図だと聞いている。別途いろいろな作戦を考えていければ良いと思う。地名や通りの名称は非常に大事である。

○次回の案内

【事務局】

- ・新型コロナウイルスの状況も見ながら4、5月頃を目途にご案内する。
- ・資料については事前にお送りする。本日の議事録についても出来次第お送りする。